

令和5年3月1日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・ 県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
三木市立豊地小学校	三木市教育委員会	国・ 公 ・私

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

三木市においては、次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、とりわけ伝統産業である三木金物の素晴らしさを伝え、我がまち三木市を愛する豊かな心を育むとともに、ものづくりを通じて自ら考え、生きる力を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」体験を中心とした「外国語活動」に取り組む。

(3) 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

ア 実施体制

本校ではALTの指導日である月曜日と木曜日に「外国語活動」及び「外国語」を設定し、中学年の「外国語活動」及び高学年の「外国語」の授業を優先しつつ、低学年の指導の時間を確保している。そして、第1学年は学級担任（HRT）とALT、第2学年は教科担任とALTのチームティーチングによる「外国語活動」を実施している。

イ 指導計画及び授業の内容

第1・2学年では、三木市の「話せる英語教育」の年間カリキュラムを参考にしながら、「英語のあいさつ」「絵カードを用いたアクティビティー」「英語のゲーム」「英単語の発音練習」「英語の歌や音楽を用いた活動」「絵本の読み聞かせ」等、音声やリズムを中心とした言語活動に取り組んだ。そして、英語による表現に親しむとともに、ALTや友だちと主体的にコミュニケーションを図れるようにした。

また、授業のはじめと終わりに「めあての設定」と「ふりかえり」の時間を確保

し、英語で何ができるようになったかを自分自身で確認するように促している。

低学年という発達段階を考慮し、授業だけでなく、休み時間や清掃時間などにもALT とともに時間を過ごし、少しでも英語を身近に感じることができるよう工夫もしている。

(4) 情報提供の状況

学年通信や学校ホームページを活用し、外国語活動の学習の様子を保護者や地域の方にお知らせしている。また、学習の中で顕著な学びが見られる児童については、通知表の所見欄において、文章表記によってお知らせしている。

(5) 特例の適用開始日及び、取組の期間

- ・ 特例の適用開始日 : 平成 28 年 4 月 1 日
- ・ 変更した特例の適用開始日 : 令和 2 年 4 月 1 日
- ・ 取組の終期 : 令和 5 年 3 月 31 日

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校教育目標は、「誇りをもち ころ豊かに たくましく 学び続ける子の育成」であり、めざす児童像の一つには「ころ豊かな子」とお互いを認め合い、高め合う子をめざしている。本市においても外国籍の人が増え、6年生が進学する中学校には外国籍の生徒がいる。そのため、外国語を通じて、言語や文化について体験

的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることを外国語・外国語活動の重点に掲げている。

(2) 実施の効果

低学年から ALT と教員とで歌やゲーム等の外国語活動を行うことで楽しく外国語の表現に慣れ親しむことができている。ALT の母国の文化や生活の様子を写真等で紹介してもらうことで、いろいろな国に興味をもつ児童もいる。また、休み時間や掃除の時間に一緒に活動することで自ら声掛けをしたり、遊びに誘ったりと積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られた。

4. 課題の改善のための取組の方向性

外国語活動では、楽しく英語に慣れて活動しているが、年間を通して外国語活動の時間が限られているだけでなく時間が空くため、覚えた単語も忘れてしまう。そのため、朝の挨拶や授業の合図を英語にするなど、英語を身近に感じられるようにする。また、9年間のカリキュラムを意識して外国語を指導できるように研修を深める必要があると考える。